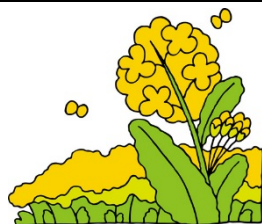


研究所だより

第398号
2019年 3月12日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“菜の花畠（ばたけ）に 入り日薄れ
見わたす山の端（は） 霞（かすみ）ふかし
春風そよぶく 空を見れば
夕月（ゆうづき）かかりて におい淡（あわ）し”

『おぼろづきよ』 1914（大正3）年 日本の唱歌



“一月は行く、二月は逃げる、三月は去る”
早いもので今年度も後半月余りとなりました。
梅や桃の花も満開となり、「今日は暖かいねえ」と春を感じさせるような声が聞こえてきます。

＝授業の見方・教室の見方＝

（教育ジャーナル 4月号から）

授業や教室を見るポイントを知る

ベテラン教師のノウハウに見える化する

教育委員会の指導主事や学校の管理職などは、教室を訪問し、授業を参観し、それに基づき指導・助言をされます。大抵の場合、各教室の授業を短時間しか見ることができません。その限られた時間の中で、先生方の改善点を見だし、どうすればよくなるのかを助言します。どうして短時間でそんなことができるのか。それは授業や教室を見るときポイントを知っているからです。

おそらく、本誌読者の皆さんは、それぞれの授業や教師指導の経験に基づき、そうした授業や教室を見る視点をおもちだと思えます。

今、中堅教師が少なく、ベテラン教師のノウハウが下の世代に伝わりづらくなっているという課題が指摘されています。今後、ベテラン教師の大量退職が進めば、それに一層の拍車をかけることになるでしょう。

今回は、基本的な教室、授業を見るときポイントについて整理します。

教室を見る

まずは、教室やその周囲の状況を見るポイントです。

○掲示物

何が掲示されているか。子どもの絵画や書道などの作品のみか、それとも各教科や総合的な学習の時間等での成果物なども掲示されているか。字は丁寧か、誤字脱字はないか、評価はどうなっているか、なども見る。

そうしたことから、日頃の取り組みの状況や教師が何を大事にしているかなどを推し量ることができる。

○教卓や教師の机の上

何が置かれているか、整理整頓されているか、チョークの粉で汚れていないか。

- 教室の前面掲示の内容や有無
- 黒板はきれいか
- 子ども用ロッカーの整理整頓状況は？
- 床に置いているものなどないか
- 教室内の植物の世話は行き届いているか
- 目につかない場所の整備状況は？

例えば、ベランダなど、あまり目の届かない場所も見ると。そうしたところまで清掃や整理整頓が行き渡っていれば、生徒指導上安定している学級の確立がたかい。問題の多い学級・学校では、そうしたところまで手をかける余裕がなくなっていることが推測される。

目につかない注目すべき場所として、排水溝、清掃道具入れ、靴箱、傘入れ、雑巾がけの状況、欠席の子の机の中などがある。

また、生徒指導上の課題がある学校を落ち着かせるためにやるべきこととして、校内の環境を隅々まで整備する例は多い。

○トイレ

清掃は行き届いているか。サンダルはそろっているか、など。



休み時間の様子を見る

休み時間の子どもや教師の様子として次のようなところを見ます。

○子どもの靴・上靴の履き方

かかとを折って履いている子がいなかったり。そういう子が多いクラスは、生徒指導上の課題ある場合が多い。

○教室や廊下の床に座っている子はいないか

○休み時間に教師はどこにいるか

教室にいるか、廊下にいるか、子どもたちと話しているか、自分の作業に追われているか、職員室にいるか。

○廊下ですれ違う子どもの表情や挨拶

校外の大人との関わりの状況や視察等に慣れていないかなどがうかがえる。

○教師に質問や話しかけにくい子がいるか

子どもと教師との関係や児童生徒の学びに向かう姿勢などがうかがえる。



授業中の様子を見る

授業中の子どもたちや教師の様子については、次のようなところを見ます。

○授業開始の挨拶

全員が挨拶しているか、声は出ているかなどを見る。

これにより、学習に向かう子どもの構えがわかる。そしてそこには、日常の教師の指導ぶりや子どもと教師の関係がどうであるかが反映される。

○一斉音読

声が出ているか。早さや声量がそろっているかなどを見る。クラスがどれだけまとまっているのか、ということと関わりがある。

○子どもの机上

始業時に机上に教科書やノートなどがどのように置かれているのを見る。

その時間に使うものが机上に出されているか。出されている場合、単に置いているだけか、

その日に学習するページや、ノートが開かれているか。ノートに日付やタイトルなどが記入されているか。

これも、学習に向かう子どもの構えがわかる。ただし、教師の指示で、事前に関かないようにしている場合があり、一概には言えない。

○プリントなどの配り方

授業前や授業中に、教師が子どもにプリントなどを渡すときの様子や、渡されたプリントを他の子どもに渡すときの様子を見る。

例えば、いちばん前の子にその列の人数分を渡して、自分の分を取って後ろに回していくやり方の場合、後ろを振り向かずにそのまま渡していないか、渡す際に「どうぞ」などと声をかけているか、受け取る側は「ありがとう」と言ったり頭を下げたりしているか。教師が渡す際に、声をかけているか、感謝の言葉を返すように指導しているかなどを見る。

学級経営において、「相手のことを大事にする」とか「きちんと挨拶する」といった指導をするが、そうした指導が徹底されているかをうかがい知ることができる。

○教師と子どもの表情

教師、子どもともに、どれくらい笑顔が見られるか、教師は誰を見て話しているか、子どもは教師の話や発表するとき教師を見ているか、子どもが発表するとき誰を見て話しているか、などを見る。

それは、教師の指導ぶりを推し量るものであると同時に、クラスの雰囲気、空気を感じ取ることのできるものである。

○その他

次のようなところにも、教師の指導ぶりやクラス、学校の状況が現れる。

- ・子どもの座っている姿勢
- ・筆箱の中
- ・授業は時間どおりに終わっているか



第6回教研推進委員会

2月21日（木）に第6回教研推進委員会が開催されました。

(1) 平成30年度の総括について

①年間の取組の反省

ア. 教研推進委員会

- * 推進委員会で協議された内容は、回覧などで全体に共有を行った。
- * 各教研の記録の配信があり、円滑に推進することができた。

イ. 教研活動

- * 一日教研などスムーズに行うことができた。
- * 給食の時間を考慮していただき、午後からの日程にゆとりがあり良かった。
- * 職員会でそれぞれの部会の報告があり、自分の入っていない部会の活動も知ることができた。

②来年度に向けての課題・申し送り事項

ア. 教研推進委員会

イ. 教研活動

- * 外国語部会の呼びかけなど検討をしていただきたい。
- * 部会構成について
 - ・ 小中連携して取り組めるようにする
 - ・ 教科部会だけでなく、大きな枠組みにしてはどうか。

(2) 平成31年度 第1回教研推進委員会の日程について

- ・ 日時：平成31年 4月11日（木）16:00～ * 組織教研：5月 8日（水）

(3) 平成31年度 市教研（組織教研開会行事・部会・一日教研）について

①組織教研開会行事

- ・ 「推進委員長の挨拶」の中で本市の教研の歴史、取り組み等について触れる。
- ・ 「日程説明・連絡事項」の中で学校数、教職員数、児童生徒数等について紹介する。

②部会構成

- ・ 部 会：従来の部会を基本とする。（各教科、問題別）
- ・ 部会構成：部会成立は5人以上並びに複数校以上の部員を必要とする。

* 4月11日の第1回教研推進委員会までに部会の希望を提出する。

* 5月8日の組織教研までに構成人員等を確認・調整をする。

③一日教研の演題・内容について

- ・ 日時：平成31年 8月 7日（水）午前：全体会・講演（ 8：45～12：00）
午後：部会研修（13：30～16：45）

・ 会場：土佐清水市中央公民館

- ・ 講演：講師 杉本 美香さん（柔道家・ロンドンオリンピック銀メダル獲得）
演題 「Always smiling ～夢をかなえるには～」（仮）

＝第2回学力向上検討委員会＝

2月28日に第2回学力向上検討委員会を開催し、高知県学力定着状況調査における土佐清水市全体の結果について話し合いが行われました。

国語については、小学4年生・5年生共に全国、西部の平均をやや下回っていたものの、平均とほぼ同じ結果でした。算数については両学年共に全国平均を上回り、5年生の理科に課題が見られました。中学1年生は英語を除く4教科で平均を上回りましたが、中学2年生は5教科全てで平均を下回るという結果になりました。各学校共に県版学テに向けた取組が行われていましたが、土佐清水市教育委員会の調査によりますと、過去問題や自校採点、分析はほぼ全ての学校で実施されていました。しかし、「課題克服～ダントツシート～」の過去問題の活用については、授業や放課後の補充問題で活用はされているものの、評価問題や冬休みの課題として活用した学校はほとんどなく、活用の幅を広げていくことについての意見が出されました。

学校により差はありますが、小学校の国語では、読解力、新聞記事からの情報の収集、条件を満たして文章を書くこと、短文に要約すること、話を聞き取ることに課題が見られました。算数では、式から問題場面を読み取ること、長さ、面積、立体への数的感覚、グラフ等資料の読み取りも課題となっています。

中学校では、英語に大きな課題があることが出されました。英語でのコミュニケーション力はついてきており、聞かれたことに対してすぐに英語で返せるようになっています。しかし、自分が話した英語を文章で書くことができない、ノートに学習した足跡が残らないということから、基礎となる文法や単語を書く時間が必要ではないだろうか。また、対話は大事だが、考えないまま話す、大事なことを考えながら聞き取ることができないと深まらないなどの意見が出されました。

今後の取組として

- ・ 若年教員が授業のポイント、子どもの考え方などを見取る力をつけるためには、ベテラン教員の授業を見ること。反対にベテラン教員は、今まで通りの指導法で子どもが分かったと思いがちになることがあるため、こちらも授業を見て学ぶことが大切である。

- ・ 単元・授業を通してつけなくてはならない力のゴールイメージをもつためには、教材研究をしっかりすること、日々の授業が大切である。
 - ・ 過去問題に取り組むことで問題に慣れることも必要。毎日継続して1問ずつ取り組んだ学校もある。家庭学習に取り入れるなどして継続して取り組むことも大切である。
 - ・ 根拠に基づいて論理的に説明するためには、語彙をつける取組が必要である。
- などの意見が出されました。

効果のあった取組例として、ノート指導が挙げられました。低学年から、絵や図を使って書かせることを徹底し、校内研修でノートを持ち寄ってノートを見合い、日々のノート指導に活かす。ただ、見るだけではなく、良いところや工夫している所に目を向けて意見交換をすることはとても大切なことだと思います。また、算数のまとめの際には、算数用語やその時間のキーワードを使ってまとめさせるということも紹介されました。

＝第3回教育研究所運営審議会＝

3月5日（火）に第3回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の事業実績①教員の資質・指導力の向上の取組、②学力向上の取組、教育推進委託事業（教研活動）・教育調査研究委託事業（研究協力校等）の取組、③豊かな心と健やかな体の育成の取組等について報告、意見交換を行いました。

＝本年度の主な事業＝

- ① 教員の資質・指導力の向上の取組
 - ・ 転任教職員研修会の開催
 - ・ 校内研修会等への支援
- ② 学力・指導力向上の取組

教育推進委託事業：教研活動、教育調査研究委託事業：研究協力校（3校・1グループ）
学力向上検討委員会（連携事業）（2回）
- ③ 豊かな心と健やかな体の育成の取組

市内の現状、定期的な学校訪問、適応指導教室「あすなろ教室」との連携、教育支援コーディネーター「あすなろネットワーク」連絡協議会の開催（5回）
- ④ 特別支援教育支援、
- ⑤ 情報教育に関する事業、
- ⑥ 資料収集に関する事業、
- ⑦ 刊行物等
 - ・ 研究所だより
 - ・ 社会科副読本「土佐清水市の暮らし」の増刷・配布
 - ・ 「中濱万次郎」副読本編成委員会の開催（年8回）
- ⑧ 教育研究所運営審議会（年3回）
- ⑨ 教育研究所連絡協議会（年2回）

特に教研活動については、「各部会は、研究主題に則り充実した活動を行っている。部会編成については、部会が成立し、自主的・主体的に活動できるように柔軟な対応をお願いしたい。」などのご意見をいただきました。

研究所の事業を進めるに当たり、多くのご教示・ご示唆をいただきました委員の皆様から感謝を申し上げます。次年度も教育研究所の運営、研究推進のためにご協力をよろしくお願い申し上げます

☆DVD・書籍の紹介☆

☆DVD

- 人権教育教材（中学生以上・視聴時間25分）

「こんにちは 金泰九さん ハンセン病問題から学んだこと」①

第33回全国中学生人権作文コンテスト
法務大臣賞「NO!と言える強い心をもつ」映画化

- 人権教育教材（小中学生以上）

「シリーズ映像で見る人権の歴史」

- ・ 第1巻 東山文化を支えた「差別された人々」（16分）
- ・ 第2巻 江戸時代の身分制度と差別された人々（15分）
- ・ 第3巻 近代医学の基礎を築いた人々（17分）
- ・ 第4巻 明治維新と賤民廃止令（18分）
- ・ 第5巻 洪染一揆を闘いぬいた人々（新巻）（18分）②
- ・ 第6巻 日本国憲法と部落差別（新巻）（17分）③

☆書籍

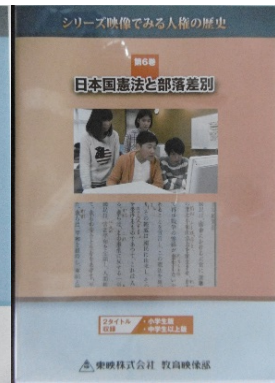
- リーダーズ・ライブラリ Vol.10
「教師の働き方とメンタル・マネジメント」（ぎょうせい）
- リーダーズ・ライブラリ Vol.11
「インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン」（ぎょうせい）



①



②



③

